彙　　　報

会長　松本克己

平成3年度第2回常任委員会

日　時：平成3年9月7日（土）午後1時半～6時半

場　所：三省堂出版局

出席者：松本克己（会長），角田太作（事務局長），井出祥子，荻野綱男，崎山理，長嶋善郎

オブザーバー：柴谷方良（編集委員長），上野善道（会計監査委員），阿部泰明（大会運営委員長代理）

議　事

（1）第103回大会（平成3年度秋季大会）について。

講演者・研究発表者などの大会の詳細を決め，プログラムを決定した。

（2）第104回大会（平成4年度春季大会）について。

6月6日～7日に神田外語大学で開催する予定である。

（3）学会の財政について。

来年度から学会事務センターへの委託費が値上がりすることなどを踏まえ，今後の学会の財政状況を審議した結果，来年度から国内普通会員の会費を1000円上げて7000円とし、学会として150万円前後の収入増が必要であるという合意に達した。

（4）第15回国際言語学者会議への代表派遣について。

学会の財政が逼迫しているため，代表者を選んだ場合でも，日本言語学会として旅費の負担は行なわないという結論になった。これを踏まえ，今後，次回の委員会で通常の選挙を行なうことになる。今後は，毎年の予算から5～10万円程度を積み立て，学会の負担で国際言語学者会議に代表を送るという案も出された。

（5） 予稿集について。

賛否両論の意見が出て結論には達せず，継続的に審議していくことになった。

（6） 「言語研究」のバックナンバー，「人類科学」のバックナンバー，寄贈図書などの扱いについて。

「言語研究」の扱いについては，継続的に審議していくことにした。

「人類科学」の扱いについては，他の寄贈図書と同様の扱いにする。

寄贈図書は，三省堂の事務局の場所が狭いので，どこかの図書館に寄贈することを考慮することにした。

（7） その他。

学会宛に送られてくる国際会議の案内をどのレベルまで言語研究に載せるかを相談した。掲載の可否については事務局一任ということになった。

平成3年度第2回委員会

日　時：平成3年10月26日（土）午前10時～午後1時

場　所：南山大学 L 910 会議室

出席者：松本克己（会長），竹内和夫，細田鉄男，井出祥子，井上和子，井上史雄，荻野綱男，田中克彦，角田太作，長嶋善郎，原口庄輔，湯川恭敏，阿部泰明，小泉　保，清水克正，筧　壽雄，影山太郎，近藤達夫，崎山　理，佐藤昭裕，柴谷方良，西田龍雄，蔀　司郎，吉田和彦（以上24名）

委任状：42名

オブザーバー：土田　滋（会計監査委員）

議事に先立って，大会運営委員長駒井明氏から挨拶があり，また，長らく言語学会評議員を務められていた服部健氏の死去について，会長から報告があった。

議　事

（1） 平成3年度第2回常任委員会の報告があった。

（2） 学会の財政問題について，過去十数年間の収支の動き，および今後に見込まれる学会事務センター委託費の値上げ，言語研究刊行費の値上がりなど諸般の状況を勘案した結果，会費の値上げが必要であるということで意見が

一致した。

具体的な値上げ幅については，いくつかの案が出されたが，審議の結果，次のように決定された。

平成4年度から，通常（国内）会員は現行6000円を7000円，通常（在外）会員は現行7500円を8500円，維持会員は国内・在外ともに10000円とする。これによって，年間約150万円の収入増が見込まれることになる。

また，委員など学会の役員には，積極的に維持会員になってもらうという提案がなされ了承された。

なお，学生会員制度については，その取扱いを学会事務センターに問い合わせることになった。

（3）第15回国際言語学者会議への代表派遣の選出について，今年度は今までと事情が変わったので，代表の選出法について委員会で時間をかけて審議した。そして，今回は学会の財政難という事情もあって，学会からの旅費の支給は不可能なので，これまで通り学術会議から旅費の支給される可能性の高い柴田武氏（現学術会議会員）を代表として選出することに万場一致で決定した。

（4）言語研究のバックナンバーについて，各号ごとの在庫状況の数字が示された。そして，積極的に会員に販売するように働きかけることになり，大会会場にバックナンバーを展示することが検討された。また，言語研究100号記念号に1～100号までのインデクスが入るので，それにあわせて在庫状況も会員に知らせることになった。

（5）日本言語学会に対する寄贈図書の扱いについては，以前からの経緯があるので，まずは東京外国語大学（ＡＡ研）と交渉するべきだということになった。

（6）第104回大会については，神田外語大学で平成4年6月6日・7日に行なわれることが決定された。これに伴い，大会委員長井上和子氏から挨拶があった。

（7）言語学用語集について，今までの経緯を含め，会長ならびに小泉保氏から報告があった。それによると，現在は，第2次試案の作成が終わり，日本

英語学会との共同検討の段階に入っている。

（8） 津田日本語教育センターから，言語学会が平成3年11月30日から12月1日に開かれる予定の日本語シンポジウム「言語理論と日本語教育の相互活性化」の後援団体になることについて依頼があり，了承された。

（9） 会長から，1992年7月27日から8月1日にかけてソウルで行なわれる The Third Seoul International Conference on Linguistics について紹介があった。

第103回大会

期　日　平成3年10月26日（土）・27日（日）

会　場　南山大学

第1日（10月26日）

開会の辞　午後1時30分より

公開講演

Toward a cognitive grammer of voice constructions

柴谷方良（神戸大）

教育放棄と言語発達

藤永　保（お茶の水女子大）

会員懇親会　午後5時30分～8時

第2日（10月27日）

研究発表　午前10時～12時20分

○ A会場

（A1） 10：00～ 漢語諸方言における声母の構造的対立について　山崎雅人

（A2） 10：30～ 上古中国語の代名詞「吾」「我」の区別に見る「二つの規則」　杉田泰史

（A3） 11：20～ ツングース語の属格表現　田村建一

（A 4）　11：50～　ルバ語動詞連体修飾形について　湯川恭敏

○ B会場

（B 1）　10：00～　ガを持つ文の統一的把握　鬼山信行
—特定の状況と特定の発話—

（B 2）　10：30～　An annular analysis of the case particles *ga*, *o* and *ni* in Japanese　大野喜代治

（B 3）　11：20～　Clipping compound の構造　近藤清兄

（B 4）　11：50～　「その時の横綱」の曖昧性について　西山佑司

○ C会場

（C 1）　10：00～　「二重分節」の意味するもの—類人猿にとって—　清水研明

（C 2）　10：30～　中国雲南省納西族の絵文字の諸問題をめぐって　彭　飛

（C 3）　11：20～　類型論的観点による調音様式間の階層性について　乾　秀行

（C 4）　11：50～　音韻理論における変更規則の位置づけ　高橋直彦

研究発表　午後1時30分～午後4時20分

○ A会場

（A 5）　1：30～　聖書ヘブル語の語順—語り以外の場合—　竹内茂夫

（A 6）　2：00～　アナトリア祖語動詞語尾の再建—3人称複数過去—　吉田和彦

（A 7）　2：50～　フランス語における seul の分析　藤田　健
—量化詞としての seul と形容詞としての seul—

（A 8）　3：20～　ポルトガル語における定冠詞・代名詞　坂東照啓
o, a, os, as について

（A 9）　3：50～　談話レベルから見たロシア語の直接引用表現　北上光志

○ B会場

（B 5）　1：30～　Dutchman 条件文に関する一考察　山崎英一

（B 6） 2：00～ Prevent 動詞の補文構造について 森藤庄平

（B 7） 2：50～ On the "Unaccusativity" of psychological predicates

橋本　学

（B 8） 3：20～ Generalized government transparency corollary

内堀朝子

（B 9） 3：50～ 項構造における算定 緒方隆文

○ C会場

（C 5） 1：30～ 近代中国語敬語の修辞的性質と語用論的

「高さの方略」について 彭　国躍

（C 6） 2：00～ 中国語における発話行為の表現について 原田寿美子

（C 7） 2：50～ 日本語における「同意を求める行為」の語用論的考察

西村史子

（C 8） 3：20～ 夫婦の呼称にみる日本語敬語の方向 奈倉俊江

（C 9） 3：50～ 方言における女性語の意識調査 髙原久美子

閉会の辞

◇ 受贈図書リスト（平成3年5月1日～11月30日）

愛知県長久手町の言語（山田達也，丹羽一彌，田島優 著）
（山田達也，丹羽一彌，田島優；長久手町史資料編四　民俗・言語抜刷　1990）
英米文学と言語　第二期　第一号　（ピピュロス研究会　1991）
江戸の翻訳空間（岡田袈裟男著）　（笠間書院　1991）
音声科学研究　XXIV　（京都大学音声科学総合研究部会　1990）
音声学会会報　第197号　（日本音声学会　1991）
1990年音声言語処理国際会議報告書
（1990年音声言語処理国際会議実行委員会　1990）
神奈川大学言語研究　No. 13　（神奈川大学外国語研究センター　1990）
学振ナイロビセンター図書目録
（日本学術振興会研究協力課　海外研究連絡センター　1991）
計量国語学　18巻1号，2号　（計量国語学会　1991）
ケチュア語／スペイン語／日本語小辞典（アンヘリカ・パロミーノ＝青木，青木芳夫共編）　（ラテンアメリカ資料センター　1991）
研究紀要　第12巻　第1号　（鹿児島女子大学　1991）
研究報告集　12　（国立国語研究所　1991）
言語学研究　第9号　（京都大学言語学研究会　1990）
言語の世界　Vol. 8　No. 1・2　（言語研究学会　1990）
言語文化研究　第9号
（東京外国語大学大学院　外国語学研究科言語・文化研究会　1991）
国語学　165，166　（国語学会　1991）
国語学研究　30　（東北大学文学部『国語学研究』刊行会　1990）
国立国語研究所年報　平成元年度　41　（国立国語研究所　1990）
作新学院大学紀要　創刊号　（作新学院大学経営学部　1991）
史苑　第51巻　第1号，2号　第52巻　第1号　（立教大学史学会　1991）
宗教研究　288　第65巻　第1輯，289　第65巻　第2輯
（日本宗教学会　1991）
人文科学科紀要　第94輯　XXV

（東京大学教養学部人文科学科国文学・漢文学研究室 1991）

聖隷学園聖泉短期大学 人文・社会科学論集 第8号

（聖泉人文・社会学会 1991）

世界の言語と日本語（角田太作著） （くろしお出版 1991）

対照研究 指示語について （筑波大学つくば言語文化フォーラム 1991）

調査報告集 12 （国立民族学博物館 情報管理施設 1991）

朝鮮学報 第百三十九輯，百四十輯 （朝鮮学会 1991）

通信 第71号，72号

（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1991）

展示会ガイド Vol. 22 （コンベンション・フォーラム 1991）

東海大学紀要：留学生教育センター 第11号 （東海大学 1991）

東京外国語大学論集 第41号-1990 第42号-1991

（東京外国語大学 1990～91）

東京大学言語学論集 11 （東京大学文学部言語学研究室 1991）

東方学 第八十二輯 （東方学会 1991）

東方学会報 No. 60 （東方学会 1991）

東洋学文献類目 1988年度

（京都大学人文科学研究所附属東洋学文献センター 1991）

東洋学報 第72巻 第3・4号 （東洋文庫 1991）

都大論究 第28号 （東京都立大学国語国文学会 1991）

独協大学外国語教育研究 第10号 （独協大学外国語教育研究所 1991）

日本学術会議月報 第32巻5月～10月号 （日本学術会議広報委員会 1991）

日本語教育学会秋季大会研究発表要旨 平成3年度 （日本語教育学会 1991）

日本語教育通信 第2号～5号-1990 第6号～8号-1991

（国際交流基金日本語国際センター 1990～91）

日本語教育とともに（小出詞子著） （凡人社 1991）

日本語教育論集 世界の日本語教育 第1号

（国際交流基金日本語国際センター 1991）

日本語研究 第12号 （東京都立大学国語学研究室 1991）

日本語国際センター紀要　第1号　（国際交流基金日本語国際センター　1991）

日本語と中国語の対照研究（中本正智編著，劉麗著）　（学術情報　1991）

日本語の文法の研究（佐治圭三著）　（ひつじ書房　1991）

日本語のモダリティと人称（仁田義雄著）　（ひつじ書房　1991）

日本全国書誌　No. 1806　（国立国会図書館　1991）

日本民俗学　185～187　（日本民俗学会　1991）

函館英文学　XXX　（函館英語英文学会　1991）

北欧語入門（M. O' C. ウォルシュ著　藪下紘一訳）

（北海道大学図書刊行会　1990）

みんぱく　5月～11月号　（国立民族学博物館　1991）

明暗としての<はい><いいえ>――存在における<股>の概念について

（山田毅弘著）　（勁草出版サービスセンター　1991）

山形女子短期大学紀要　第23集　（山形女子短期大学　1991）

山口国文　第14号　（山口大学人文学部国語国文学会　1991）

山口女子大学研究報告　自然科学　第2部　第16号　（山口女子大学　1990）

山口女子大学研究報告　人文・社会科学　第1部　第16号

（山口女子大学　1990）

山口大学独仏文学　第13号　（山口大学独仏文学研究会　1991）

四つ仮名方言の動態と意識（久野マリ子，久野眞，大野眞男，杉村孝夫著）

（国学院大学日本文化研究所　1991）

立命館　言語文化研究　2巻4号，5・6合併号　3巻1号

（立命館大学国際言語文化研究所　1991）

論集　48　（神戸大学教養部　1991）

わが国における外国語研究・教育の史的考察

（上：山口慶四郎編）-1989（下：近藤達夫編）-1990

（大阪外国語大学　1989，1990）

わが国の大学における外国語教育の実態　別冊（研究プロジェクト「わが国における外国語研究・教育の史的考察」編）　（大阪外国語大学　1990）

Acta Asiatica 61　（東方学会　1991）

ArOr Vol. 59 1～3 (Academia Praha 1991)

Bulletin No. 132 (The Linguistic Society of America 1991)

Language Vol. 67 No. 1～3 (The Linguistic Society of America 1991)

Lexicon No. 21 (岩崎研究会 1991)

Linguistic Research No. 9 (東京大学文学部英文学研究室 1991)

Naše Řeč 1～3 (Academia nakladatelství Československé akademie věd 1991)

A Newar Buddhist Temple Mantrasiddhi Mahāvihāra and A Photographic Presentation of Gurumandalapūjā (Iwao Shima) (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1991)

Philologia 23 (三重大学英語研究会 1991)

Slovo a Slovesnost LII 2, 3 (Československá Akademie Oriental Institute Čsav 1991)

Symposion 6 (ドイツ語学文学研究会 1991)

Traditions Historiques des Peuples du Cameroun Central (Eldridge Mohammadou) (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1991)

◇　蒙古語・アルタイ諸語の研究で著名な本学会評議員野村正良氏（名古屋大学名誉教授）は，平成3年12月9日，心不全のため死去されました。謹んで哀悼の意を表します。

◇　本誌は，文部省平成3年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を得て刊行されたものである。

お　知　ら　せ

㈶日本学会事務センターは，1992年4月13日より下記に移転します。

新住所　〒113 東京都文京区本駒込5丁目16番9号

新電話番号

03－5814－5801　学会業務（庶務，窓口，渉外）

5810　会員業務（入退会，住所変更等，会費，会誌）